

# なら 植防ニュース

## 平成27年度奈良県農薬安全使用研修会 が行われた。

7月24日に奈良県郡山総合庁舎で研修会が開催され、緑の安全推進協会から乾公正氏（石原産業株式会社）、日本くん蒸技術協会から神原一博氏（クラレクラフレックス株式会社）の2名の講師を招いて講演が行われた。

乾氏からは「公共施設や住宅地周辺における農薬の安全な使用について」の講演が行われた。

農薬は、高品質の農作物の安定生産のために不可欠な生産資材である。安全性評価を実施し、合格したものが農薬として登録されるが、その選択や使用法を誤ると、使用者本人・周辺住民や周辺作物へ被害を与え、周辺環境に悪影響を及ぼすことがある。このため、農薬の使用者は安全確保のために、農薬に関する正しい知識を得て、正しく使用する責任がある。

住宅地等での農薬使用では、周辺住民の安全・安心の確保が重要である。そのため、農薬の適正な使用や薬剤の選択、飛散防止対策により周辺住民及び環境の安全確保を行うこと。また、正しい農薬に関する知見に基づき周辺住民への農薬使用の説明を行なうことで農薬散布に対する理解を得ることが必要である。

次に、神原氏から「農薬用保護マスクの正しい使い方」について講演が行われた。農薬散布による中毒事故の約74%は使用

一般社団法人奈良県植物防疫協会

〒634-0813 橿原市四条町88  
奈良県農業研究開発センター内  
TEL0744(22)8151  
FAX0744(22)8152(専用)

目	次
◎平成27年度農薬安全研修会	1
◎第10回フザリウム研究会	2
◎農林害虫防除研究会20回大会	3
◎登録失効になった農薬 (FAMICの失効農薬情報より)	4

者の油断からくるもので、注意を怠らなければ防ぐことができる。そのうち、農薬用マスク等の保護具の装備不十分が原因となる事故が毎年起きている。中毒事故での農薬の吸収経路は経皮・経気道・経口の3つが考えられ、このうち経気道・経口が直接体内に吸収されるため、人体への影響が大きい。また、農薬散布作業は重労働であり、呼吸が荒くなるため、より吸い込みやすくなる。農薬用マスクや保護マスクの使用でほぼ100%の農薬が除去できるため、農薬散布にはマスクの適切な使用が中毒事故防止に重要となる



## 第10回フザリウム研究会

奈良県植物防疫協会 岡山 健夫

8月27～28日に三重県伊勢市で大学、国研、県および農薬メーカーなどのフザリウム菌研究者が参集し、発表と質疑応答が行われた。

基調講演として、駒田旦氏が「フザリウム分類と生態・防除に積み残したこと“bud cell”ってなに？」と題して発表があった。*Fusarium oxysporum* 種複合体に侵されるフザリウム病は、植物の導管内を小分生子が導管流に乗って転流すると思われているが、bud cellが転流するとの仮説を提唱された。bud cellは液体培地で振とう培養を行ってできる、酵母に似た出芽細胞で、自然界で観察される小分生子とは形態が異なる。これまで転流の事象は観察されたことがなく、ヘチマ水を採取する要領で導管水を採取して観察してはどうかとの提案がなされた。氏が執筆された大著「フザリウム 分類と生態・防除」には研究成果が網羅され、新たな研究分野がないのではとの錯覚に陥るかも知れない。しかし、植物の導管を病原菌がどのような形態で転流するかという基本的な事象すら未解明なのが現状であり、若手研究者の挑戦を促された。このほか、フザリウム菌に関する研究成果30課題が発表された。注目された演題を紹介する。

分類では、遺伝子解析が導入され、フザリウム菌を含む真菌類の分類に多大な影響を及ぼしている。分子系統解析の結果、既存の属を分割して転属が行われる状況

にあり、学名変更による混乱が起きる情勢にある。一方、遺伝子解析は診断技術の発達に貢献し、岐阜大学や奈良県、千葉県が共同開発したイチゴ萎黄病菌の検出技術は、奈良県はもとより三重県や和歌山県でも活用され、高い関心を得ている。

宮城県ではイネの種子消毒に化学農薬に代わって温湯消毒が普及しつつあるが、ばか苗病が増加する傾向が認められている。異なる消毒処理後の種子に病原菌を接種した結果、温湯消毒種子は無消毒よりも感染発病しやすくなると考えられた。

群馬県ではハクサイに黄化・萎凋症状が発生し、分離された *Fusarium oxysporum* の病原性を確認した結果、32℃で栽培した株が発病し、維管束が褐変したが、24℃では健全に成長した。聞き取り調査の結果、平年よりも早く定植した株が発病しており、高温時の移植が発病を促したものと推察された。

岐阜県では、トウガラシの立枯株について白絹病菌と *Fusarium* 属菌が観察され、重複感染によって被害が大きくなる事例もあった。その対策として根を紙で包んで定植したところ、立枯株の発生が顕著に抑制された。

講演は、フザリウム病の診断、分類、生物防除、土壌消毒、遺伝子、カビ毒など多岐に渡った。演者からは、試験方法について率直な問いかけもあり、分類や接種法、検出法について活発な議論が交わされた。

## 農林害虫防除研究会第 20 回大分大会 参加報告

奈良県病虫害防除所 今村剛士

7月21日、22日に、農林害虫防除研究会第20回大会が大分県にて開催された。シンポジウムは7講演、一般講演は17講演が行われた。シンポジウムは「新たな薬剤抵抗性害虫への対応を考える」と題し、農業害虫の薬剤抵抗性の現状やその対策などについての講演やパネルディスカッションが行われた。注目された講演は「海外飛来性イネウンカ類の薬剤抵抗性発達の現状と今後の防除対策」(農研機構九州沖縄農業研究センター:松村正哉)であった。以下、その概要を記す。

近年、東・東南アジアで抵抗性を発達させたウンカ類が日本に飛来している。国内でのウンカ類に対する薬剤感受性調査の結果、トビイロウンカではネオニコチノイド系殺虫剤であるイミダクロプリド(アドマイヤー水和剤など)に対して、セジロウンカではフィプロニル(プリンス粒剤など)に対して、それぞれ感受性が著しく低下していた。ヒメトビウンカの感受性は地域によって異なり、関東から近畿にかけてはフィプロニルに対して、九州などではイミダクロプリド、フィプロニルに対して感受性が低下した事例が多かった。このため、生産者は発生するウンカの種類を特定した上で効果的な薬剤を選択することに加え、ウンカ類が増殖しにくい施肥管理(多肥を避ける)を行う必要がある。



セジロウンカ(成虫)



トビイロウンカ短翅型

一般講演ではナスのミナミキイロアザミウマ防除に関する話題「天敵資材と化学農薬の併用による半促成ナスのミナミキイロアザミウマの防除体系」(大阪環農水研:城塚可奈子)が提供されたので以下に紹介する。

大阪府では現状、ナスのミナミキイロアザミウマに対する有効薬剤は、感受性の低下により数剤に限られている。そのため、天敵資材(スワルスキーカブリダニなど)と化学農薬を併用した防除体系を3年間に亘って検討した。ミナミキイロアザミウマによる被害果を抑制できた年はいずれも、スワルスキーカブリダニ放飼前のミナミキイロアザミウマの発生密度が低く、これがミナミキイロアザミウマの発生密度抑制に効果を及ぼしたのではないかと考えられた。



ミナミキイロアザミウマの被害果実

その他の一般講演でも、天敵、二酸化炭素、紫外線、防虫ネットなど、化学農薬に頼らない防除の事例が多く紹介された。

次年度は山梨県で行われる予定である。

登録農薬失効情報(2015. 6. 1~2015. 8. 31)

農林水産消費安全技術センター(FAMIC)の登録農薬失効情報より抜粋

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名(略称)	失効日
殺虫剤				
19742	アセタミプリド液剤	モスピランスプレー	日本曹達	6/25
22414	クロラントラニリプロール水和剤	デュポン アセルプリン	シジエント	7/22
20410	パーティシリウム レカニ水和剤	バータレック	アリスタ	8/15
殺虫殺菌剤				
17869	エトフェンプロックス・PAP・フサライド・フルトラニル粉剤	日産モンカットラブサイドイネメイト粉剤DL	日産化学	6/19
殺菌剤				
21737	BPMC・MEP・トリシクラゾール粉剤	STビームスミバツサ粉剤3DL	住友化学	7/19
21726	エトフェンプロックス・トリシクラゾール粉剤	STビームトレボン粉剤DL	住友化学	6/21
17063	ジチアノン・銅水和剤	金鳥デランK	除虫菊	8/13
17064	ジチアノン・銅水和剤	ヤシマデランK	協友アグリ	8/13
20398	ジラム・チウラム水和剤	バルノックスフロアブル	大内新興	6/29
22399	フェンプロパトリン・ヘキサコナゾール乳剤	花セラピー100	住化グリーン	6/24
19695	フラメトピル粒剤	ヤシマリンバー1キロ粒剤	協友アグリ	8/19
18764	フルアジナム・ホセチル水和剤	石原フルオレート水和剤	石原産業	8/26
18767	フルアジナム・ホセチル水和剤	日曹フルオレート水和剤	日本曹達	8/26
除草剤				
19697	アジムスルフロンのカフェンストロール・シハロホップブチル・ダイムロン・ベンスルフロンのメチル粒剤	ジョイスターA1キロ粒剤36	ケイアイ化学	8/19
19699	アジムスルフロンのカフェンストロール・シハロホップブチル・ダイムロン・ベンスルフロンのメチル粒剤	永光ジョイスターA1キロ粒剤36	エスピーエーエス	8/19
21744	イソウロン・DBN粒剤	クレイジャン粒剤	日本農薬	7/31
21725	オキサジクロメホンのクロメプロップ・シハロホップブチル・ベンスルフロンのメチル粒剤	カルテット1キロ粒剤51	北興化学	6/21
21757	オキサジクロメホンのベンスルフロンのメチル・ベンゾピシクロンの粒剤	ホクコープラスワン1キロ粒剤75	北興化学	8/16
21758	オキサジクロメホンのベンスルフロンのメチル・ベンゾピシクロンの粒剤	プラスワン1キロ粒剤75	デュポン	8/16
20412	オキサジクロメホン水和剤	JAフルハウスフロアブル	全農	8/15
19662	ジクワット液剤	レグロックス	シジエント	6/24
23096	ブロマシル・MCP P粒剤	G FクサレンジャーV	住友化学園芸	6/27
18763	メトスルフロンのメチル水和剤	丸和サーベルDF	丸和パティ	7/25
その他				
22413	デシラルコール・ブトルアリン乳剤	ニューファムイエローリボン	ニューファム	7/22
18921	ベンフラカルブ複合肥料	大塚オンコル入り側条用肥料1号	OATアグリ	6/4
15142	リン化亜鉛粒剤	ラテミンブロック	大塚薬品	7/30

お知らせ

7月29日、一般社団法人奈良県植物防疫協会臨時総会を開催し、浅井真人会長に替わって、近藤晃一(奈良県農業協同組合中央会専務)が新会長に就任しました。今後ともよろしくお願ひします。